



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

武蔵小金井雲母保育園



テーマ【異文化コミュニケーション】

設定した理由・背景

保育園の中でも多様な国の園児がいるため、様々な国の言葉や文化、食事などに興味を持って欲しいと考えたため。また知ること、学ぶことをきっかけとして、探求活動につなげていきたいと考えたため。

用意した環境設定

・スクリーン・プロジェクター
スクリーンに向かって座り参加、ダンスやワーク等の内容により、机や椅子の位置を変更した。

購入品

プロジェクター、スクリーン、地球儀、世界地図、国旗ポスター

活動のあゆみ

2024年1月20日から毎週月・水・金曜日に実施
・14:00～ZOOMにてセブ島のクリス先生と英語のレッス
ンを行う。

1月3, 4週目テーマ：たべもの

2月1, 2週目テーマ：とぶもの

3, 4週目テーマ：のみもの・あじ

3月1, 2週目テーマ：ようふく

3, 4週目テーマ：たんじょうび

✽探究活動の実績✽

①問い

子ども達が自分の国とは違う国に興味を持てるように、世界地図や国旗などを用意し、「好きな国旗はあるかな」「知ってる国はあるかな」「英語で犬はなんていうのかな」等、興味がある事から問いかけを行った。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

世界地図をみながら、大きい国や小さい国、知ってる国、また、この国旗が好きなど、思い思いに興味を持つ姿が見られた。保護者には子ども達に対し、レッスン後の感想や内容を毎回聞いてもらうように声かけを行った。

③活動中の子どもたちの姿・声、

子ども達は楽しんで参加できていた。回を重ねるごとに先生の国の天気や動物、食べ物などに興味を持つ姿が見られ、自ら先生に質問をする姿が見られた。それと同時に自分の国の事も先生に知って欲しいという姿も見られ、「日本は今日雪が降った」なども保育士と単語を調べ、繋ぎ合わせ、自分たちで伝える事ができ、達成感を味わっていた。

ダンス活動の時はスペースをどう使うか、カードや塗り絵活動の時はグループ構成や取り組み方法をどのようにしていくかを園児たちで話し合っていることができていた。

④終わりの時期の姿・まとめ

子ども達だけでレッスンに参加できるようになり、保育士は見守る形の参加となった。自ら先生への質問に手を挙げる子どもが増え、「最初は恥ずかしかった」という子どもも、後半には大きな声で参加していた。様々な国への興味が広がった。



クリス先生とZOOMでレッスンします。



ダンスでは、元気にノリノリで踊っています。



カードを使ったレッスンをしました。

まとめ

この活動を振り返り、子ども達が他国の言葉だけでなく文化にも興味を持ち、自分たちで考えて先生に質問をしたり、調べたりする姿が見られた。また、挨拶などの日常会話に英語の単語を使うようになるなど、自然に英語を使えるようになっていた。受動的な参加にならないように、子どもの声を聞きながら環境構成や活動内容を発展させられたと感じている。

保護者への展開としては、生活発表会で英語の歌「Hello song」を披露することができ、他にもテーマ毎の歌やダンスが見れるQRコードを配布し、家庭でも振り返り楽しめるように工夫することができた。

園内での情報共有も大切にし、担任だけでなく様々な職員がレッスンに参加し、職員同士で共有することで全員が理解を深め、次に繋がるようにした。来年度は5歳児だけでなく、4歳児もレッスンに参加し、子どもの探求心を育てる活動を展開していきたいと考えている。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

武蔵小金井雲母保育園



テーマ【 音 】

設定した理由・背景

武蔵小金井雲母保育園の運動会で毎年披露している和太鼓にスポットをあて、ただ太鼓を叩くというだけでなく、叩き方で生まれる音の違いや他の楽器と組み合わせで起こる様々な音の変化に興味を持って欲しいと考えたため。

さらに、様々な楽器や身近にある物や太鼓を組み合わせることで生まれる新しい音の発見を促す。音の振動に対しても気づきを与え、それぞれの楽器や音の出し方の違いを探索し、興味や関心を深めて欲しいため。

用意した環境設定

自園の和太鼓を用意し、楽器だけでなく身近にある道具や自然物を用意。

購入品

- ・ヴィブラスラップ・ギロ・スレイベル
- ・グロッケン・スネアドラム・大太鼓

活動のあゆみ

2月：毎週金曜日

3月：毎週金曜日

「テーマ」

- ・2月：いろいろな音をだしてみよう。
音の組み合わせを楽しもう。
- ・3月：自分の好きな楽器（音）を見つけよう。
みんなで演奏してみよう。

✽探究活動の実績✽

①問い

和太鼓や様々な楽器の音の違いを知る。「どんな音ができるの」「どうやったら音ができるの」などの簡単な問いから発展させ、身近なものとの組み合わせではどんな音が出せるのかを探索した。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

楽器ごとの違う音や叩き方による音の変化、またどんぐりを使い、跳ねる様子や音以外にも違った楽しみを見つけていた。保護者には子ども達にレッスン後の感想や内容を毎回聞いてもらうよう促した。

③活動中の子どもたちの姿・声、

子ども達は楽しんで参加していた。回を重ねるごとに、自分の好きな楽器や音を見つけたり、叩き方や他の物との組み合わせを自分たちで見つけ、最初は太鼓の音に怖がっていた子どもも他の園児に誘われることで、自分で叩き始め、楽しむ様子が見られた。太鼓は側面の穴や模様にも興味を持っていた。

④終わりの時期の姿・まとめ

子ども達だけで、いろいろな音を出してみたり、様々なものとの組み合わせを自分たちで探索し、楽しんでいた。最後は好きな楽器を自分で選び、全員で話し合って選んだ「勇気100%」を演奏した。みんなが好きなように音を出して、音を合わせる演奏会になった。



様々な楽器に興味を持つ子ども達



どうやったら音ができるのか考えています



みんなで「勇気100%」を演奏しました

まとめ

この活動を振り返り、音というテーマの中で、音だけでなく楽器の振動や太鼓の形状にも興味を持つ姿が見られ、子ども達の探求心を感じる事が出来た。またどんな物を楽器と組み合わせたら楽しいか、どんな音が出るだろうかと子供たち同士で考える姿が見られたため、活動中の子ども達の反応や興味や関心を大切に、保育者が介入しすぎないように子どもが自発的に活動できるような環境構成を用意した。

保護者への展開として、懇談会で「勇気100%」の演奏の動画を披露することが出来た。

来年度は3歳児もレッスンに参加させ、子どもの探求心を育てていきたいと考えているため、より取り組みやすい内容を模索していく。